

活動名称 (40字以内)	農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定		
団体名等	大学院農学生命科学研究科 アイソトープ農学教育研究施設		
活動区分	<input type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input type="checkbox"/> 先着順
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input checked="" type="checkbox"/> 書類審査
	<input type="checkbox"/> 就労体験活動	募集人数	<input type="checkbox"/> 面接
	<input type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動		5 人
	<input type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動		
<input checked="" type="checkbox"/> 研究室体験活動			
参加資格等	学部学生		
活動期間	2019年7月下旬 ~ 2019年10月末	主な活動場所	本郷キャンパス 農学部2号館
	上記のうち1日を予定(日程は相談の上、決定)		
目的	農産物や農地の放射性物質の検出・測定を体験することで、農地環境や測定の実態を学ぶ。		
具体的な内容 (800字程度)	<p>原発事故以来、農産物や農地の放射性物質情報を目にすることが多いが、どのようなサンプルがどのように測定されているかについては、一般的に周知されているとは言えない。そこで本活動体験では、測定する農産物等の処理、検出、測定を通して、農地環境の実態に触れる。</p> <p>2011年3月の原発事故により放射性物質が広範に降下して以来、環境中の放射性物質の動態と食の安全との関わりに市民は多くの関心を寄せている。本研究科は、震災以後いち早く部局内での体制を整えて被災地の農林水産業に関する総合的な放射性物質モニタリング調査を実施してきたが、本研究科附属放射性同位元素施設は、全てのサンプルの測定を担当してきた。本体験活動では、実際に実施されている手法について体験を通して学ぶことで、データが得られるまでの過程を知るとともに、農地環境の複雑さを理解する。</p> <p>具体的には、対象とする農地環境において、どのようなサンプルがどのように採取され、どのような前処理が行われるかを学んだ後、特に前処理について体験していただく。次に、サンプリングされた土壌や作物について、NaIシンチレーションカウンター(ガンマーカウンター)やゲルマニウム半導体検出器により測定を体験することで、測定の実際に触れる。</p>		
備考	特記事項なし		
参加するための費用※	内 訳(1名当たり)	その他※特記事項は以下に記載	
	交通費 円 宿泊費 円 () 円 () 円 計 0 円	奨励金額 なし 円	
ウェブサイト等	農学部の活動についての本 https://www.nhk-book.co.jp/shop/main.jsp?trxID=C5010101&webCode=00912082013 農学部の復興支援: http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/index.html 農学部の事故後1年半をまとめた参考書 Agricultural Implications of the Fukushima Nuclear Accident: http://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-54328-2/page/1		